

あとがき

本書は公益財団法人国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンターの開設 20 周年を記念して刊行された。同時に刊行された『海外における日本宗教の展開—21 世紀の状況を中心に—』と姉妹編である。

宗教情報リサーチセンター（RIRC）は 1998 年 11 月に設立された。設立の理念に基づいて、国内外の宗教情報の収集とその分析、そして発信を行ってきた。とくに 21 世紀に入ってから、多くの文献資料やデジタル情報を含む各種の情報が収集できている。それらを宗教を専門的に研究している立場から慎重な検討を行った上で、整理し発信していく作業は、この情報時代には重要な課題となってきている。本書は今後さらに積み重ねられていく、このような作業の一環としての意味を担っている。

執筆は、RIRC の現在の研究員とかつて研究員であった人たちにお願した。それぞれの関心に近いテーマを選んで執筆してもらった。また開設以来センター長を務めさせてもらっている編者は、最初に全体の見取り図のようなものを描いた。これまで RIRC の研究員となった人はすでに 40 人を超しているが、今回は希望者を募って 20 周年記念プロジェクトを結成し、2 年余の準備を経て刊行に至った。

研究員の専攻分野と研究分野は多岐にわたる。宗教研究に関わっているという点では共通しているが、宗教社会学、宗教人類学、宗教史学、宗教民俗学などの方法的違いがあり、扱っている地域や時代もそれぞれ異なる。しかし今日の新しい現象と向かいあうには、専攻分野の視点にのみ捉われては不十分である。執筆者同士で相互に意見を交わし、異なった視点を得て対象への見方を広げることが大事な時代になっている。そのような刺激を得る機会にもなったのではと考えている。

執筆のための研究会は 2016 年にスタートした。10 月に第 1 回の研究会を開いた。以後 2018 年に至るまで数度の研究会を開催し、それぞれ担当を決め執筆してもらった。各自が集めた基本的資料・データはオンラインで共有することにし、それを踏まえて意見を交わした。RIRC で収集し公開している新聞、

雑誌のニュース記事にも、新たな光があてられることもあった。都合上、刊行は2冊に分けられたが、研究会はそうした区分とは関係なく行われた。

元研究員は、すでに大学で教鞭をとっている人が多いが、現研究員のなかにも大学で非常勤講師として教えている人がいる。編者は長く大学において講義や演習を経験してきたが、そうした場合は、若い世代が接している宗教情報についても知る機会でもある。宗教をめぐる状況は日々変わっていく。自分が教わったときに常識であったことが、10年20年、あるいはそれ以上経つと、よほど様相が変わってしまうことがある。現代社会のように情報化が進む時代にはとくにそうである。

宗教に関わる新しい事態に直面したとき、それまでの経験を活かしつつも、柔軟な姿勢で臨むというのは、学問としての鉄則である。学説や方法論は複雑な現象と取り組むときの力強い味方になろう。多くの人によって蓄えられた知識の塊でもある。しかしそれとて、複雑な様相を絶えず繰り返す宗教現象を到底覆い尽くすことができるものではない。グローバル化や情報化というのは、宗教の研究にとっても、かつてないほどに、研究側の柔軟な心の構えを求めてきている。

本書は電子書籍としても公開する。さらに「本プロジェクトの意義」の章で述べておいたように、ここで扱った各種データ、また地図上に示せるようなデータなどは、より詳細なものをウェブ上で公開し、バージョンアップしていく予定である。RIRCのホームページからすでにダウンロードできるようになっている他のデータとともに、多くの人に利用活用してもらい、宗教の理解や宗教の研究に役立ててもらうことを願っている。

2019年2月

井上順孝